昭和40年4月5日第三種郵便物認可
（旧「公衆衛生」）

2018年3月1日発行
第598号（通算）
発行：奇数月1日
会員購読料：1月10円(年間60円)
一般購読は別途送料

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

環境と健康

発行者
一般財団法人 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
広島県環境保健協会
佐藤　均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号　730−8631
電話　082−293−1511番
振替口座01380−2−27511
URL　http://www.kanhokyo.or.jp/

創立60周年記念事業を実施

公衛協をはじめ関係者の皆さまに感謝

協会を挙げて7つのプロジェクトを展開

平成29年12月4日、当協会は創立60周年を迎えました。当協会が事業を実施するにあたり、公衛協をはじめ、行政関係者、民間企業などの顧客、近隣の地域の方々など日頃お世話になっている方々に対して感謝の意を表すと同時に、連携を深めるきっかけになるよう平成29年4月から平成30年3月まで「60周年記念事業」を実施してきました。

この記念事業は、1月号(597号)で紹介した記念式典・祝賀会・情報紙「環境と健康」の記念号のほか、社会貢献事業・PR活動・感謝事業・記念グッズの7つのテーマを掲げ、全センターの職員が参加し、協会を挙げて取り組んできました。

今回は、これまでに紹介していない事業について報告します。

感謝事業は、公衛協や近隣の商店街、町内会、小学校、顧客の皆さまへの感謝を伝えるために実施しました。公衛協には、日ごろの実践活動で使うテントや看板、デジタルカメラなどの物品を寄贈しました。今後、コミュニティ活動の現場でご活用ください。

同様に、協会本部のある広島市中区広瀬北町の住民の皆さまにもイベントなどで使用するテントを贈呈し、早速、グランドゴルフ大会で活用していただきました。

社会貢献事業は、11月号(596号)で紹介した自然環境をテーマにした新たな事業、当協会の職員が公衛協活動へ参加して公衛協の皆さまと交流し連携を深める事業、海外支援事業を実施しました。公衛協活動では、19公衛協の事業に延べ135人が参加しました。参加した職員からは、協会のミッションである公衛協の支援について、実際の公衛協活動を知るとともに、たくさんの人とふれ合う良いきっかけになったとの感想がありました。

全ての公衛協に行くことはできませんでしたが、いずれのイベントにおいても、推進委員や事務局の方々に快く受け入れていただいた事を感謝いたします。

廿日市市吉和公衛協の地区一斉清掃に参加する職員（上）、広瀬北町のグランドゴルフ大会で寄贈のテントを活用いただく（下）

また、新たな事業展開に向けた検討の中で、海外支援事業を実施しました。平成28年度からミャンマーを対象に検討を進め、今回、ミャンマーの行政機関であるヤンゴン市開発委員会（YCDC）から、水質検査員の派遣が決定し、水質検査の分析技術向上を支援する目的で1週間の来日が実現しました。

1月29日から2月2日までの5日間にわたった研修を、水質検査員としてティンティン・ソーさんとタンダー・ミャさんの2名が受講されました。研修内容は、浄水場の見学に次いで、河川での採水、協会内の分析室において機器を用いた測定とその結果であるデータの解析方法など、一連の分析工程を実習してもらいました。

今回の研修が、ミャンマーの水道水源の保護や水環境の改善への一助となることを期待するとともに、今回をスタートにミャンマーへの分析業務を中心とした支援事業を継続して実施したいと考えています。

当協会は、多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、61年目以降も地域とともに活動を続けてまいります。

ミャンマーからの研修生に機器を用いた測定とデータ解析を指導する当協会職員（上）、浄水場で水質管理の現場を視察（下）

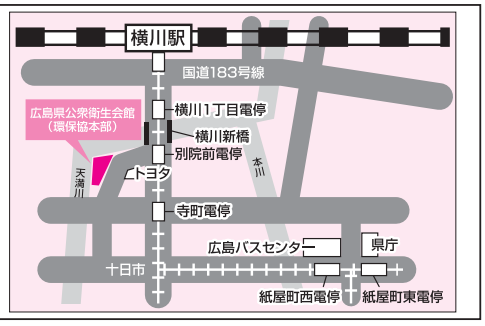
琴線歌（きんせんか）

医療・ヘルスケア×人工知能

人工知能やIoTという単語を聞かない日がないほど、私たちは新聞やWebでこれらの単語をよく見かける。広島県でも、自治体や企業、大学などが持つデータと研究シーズを融合して、新商品やサービスを生み出したり、地域のもつ課題を解決したりするチャレンジが生まれている▼人工知能やIoTは医療・ヘルスケアにおいても新しい知識の発見やサービスの創造につながっている。例えば、日常的な食事や運動などをスマートフォンアプリで記録し、クラウドで管理するヘルスケアアプリが開発されている。一時的な健康管理を行うだけではなく、習慣化させることを目的とし、食事、運動、睡眠に関する知識をアプリを通じて学び、人工知能によって提案されたプログラムのもとで、生活習慣を改善する。また、健康診断等で蓄積された大容量データの総合的な分析が、診断・治療支援につながったり、乳房超音波検診の動画像を用いたがん診断の支援技術の開発につながったりする▼しかし、人工知能技術は、最近になって開発されたものではない。最先端技術である「深層学習」は、ニューラルネットワークの研究から始まっており、1943年のMcCulloch&Pittsから始まったと言われている。ニューラルネットワーク以外にも、1950年頃から探索、推論、エキスパートシステム、音声認識などのさまざまな技術が研究開発されてきたが、深層学習が社会に知られるようになったのは、この5年のことである。これからも人工知能は人にしかできなかったことを実現していくであろうが、それは人のアイデアを実現しているに過ぎない。我々も人工知能以上にパワーアップする時代になったのではないだろうか。

（県立広島大学 地域連携センター長　市村 匠）

おかげさまで60年
住みよい未来をこれからも

一般財団法人 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
広島県環境保健協会
〒730-8631 広島市中区広瀬北町９番１号（広島県公衆衛生会館）
TEL:082(293)1511 ［大代表］ FAX:082(293)1520
かんほきょう 検索

基本理念 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。